

総合病院 聖隷三方原病院

2023年に新型コロナ禍が収束し各種補助金の無い経営環境へ移行する中で、当院では全職員の努力により大幅な経営改善を遂げてきた。しかし2025年は、急激な物価高騰に加え、想定を上回る病床稼働率の低下に直面し、極めて厳しい一年となった。そのような中、年末年始には全く異なるシステムへの電子カルテ更新という大きな転換を経験した。クラウド型電子カルテへの移行は災害対策の強化に加え、電子カルテに付随して提供される医療DXを本格的に取り入れるための決断であった。昨今の働き方改革の流れに逆行する側面もある中、スタッフが休日を返上して準備に尽力してくれたことにより、今回の円滑な更新が実現できたと考える。今後はこの新しい電子カルテを十分に活用していく段階に入る。

2026年には大幅な診療報酬改定が予想される。新地域医療構想においては、2028年までに一定の青写真が示され、2035年に向けて日本の医療システム全体が大きな転換期を迎えるものと推察される。病院の明確な淘汰の時代が始まる中、当院においても変化に即応し、急性期医療を根幹としながら、これまで先人たちが築き上げてきた当院だからこそ提供できる医療を堅持し、将来に向けて邁進する一年としたい。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 医療ニーズへ対応し信頼され選ばれ続ける病院
 - (ア) 利用者の利便性・職員満足度の向上
 - ①患者満足度総合評価 90%以上
 - ②コンシェルジュアプリ登録数 5,000人以上
 - (イ) 断らない医療の推進
 - ①救急車搬入件数 500件以上
 - ②当日紹介応需率 90%以上
 - ③内科救急受入体制整備 入院患者20人/日以上
 - (ウ) 戦略的ブランディング活動の強化
 - ①HP閲覧数 前年比105%以上
 - ②SNSアクティブユーザ数 前年比107%以上
 - (エ) おおぞら療育センターとの連携強化
 - ①三方原病院1時間以内応需率 100%
 - ②入所待機者の減少 待機0名
 - (オ) 三方原ベテルホームとの連携強化
 - ①三方原病院受診依頼応需率 100%
 - ②病院からの紹介入所者数 75人以上/年

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| (カ) 事業団内外との連携推進 | ①予防検診センターからの紹介件数200件以上/月 |
| | ②主要連携先からの紹介件数 前年比108%以上 |
| | ③開業医訪問件数 6件以上/月 |

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域から求められる専門性の高い医療の提供

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| (ア) 三方原地区再開発計画の検討 | ①新地域医療構想に対応した医療機能の検討 |
| | ②経営状況変化に対応できる建築計画の立案 |
| (イ) 医療DXの推進 | ①電子問診等の新規機能の導入と推進 3件以上 |
| | ②新システムを活用した業務改善件数 10件以上 |
| (ウ) 安定稼働を目指した病床管理 | ①病床稼働率(一般) 87.3%以上 |
| | ②各病棟稼働目標達成率 100%以上 |
| (エ) 診療科の強みを活かした医療の推進 | ①手術件数 600件以上/月 |
| | ②内視鏡治療件数 50件以上/月 |
| | ③カテ治療件数 45件以上/月 |

3. 安全で質の高い医療の提供

- | | |
|----------------|------------------------|
| (ア) 医療の安全と質の向上 | ①患者誤認件数 80件以下/年 |
| | ②手指衛生回数 20回以上/人 |
| | ③機能評価更新・高評価数 S評価6個以上 |
| (イ) 災害対応の強化 | ①災害対応チームの技能維持 チーム数維持 |
| | ②災害時通信環境の整備 スターリンク 1台増 |
| | ③広域訓練との連携に向けた計画立案 年度内 |
| | ④環境変化に即したBSCへの更新 年度内検討 |

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

4. 働きがいのある職場環境づくり

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| (ア) 成長を支える教育体制の強化 | ①初期研修医教育関連満足度 4.5以上 |
| | ②資格取得数 前年比110% |
| (イ) 職員の働く環境整備 | ①超過勤務時間 11時間以下/人 |
| | ②有休消化日数 12.0日以上 |
| | ③職員満足度「仕事のやりがい」 80%以上 |
| | 「精神的不安」 20%以下 |
| | ④ハラスメント防止活動支援評価 65%以上 |

5. 人材確保と役割分担の最適化

- | | |
|-------------------|--------------------|
| (ア) 必要な医療スタッフの確保 | ①医師採用数 6名 |
| | ②専攻医採用数 3名 |
| | ③看護師離職率 10%以下 |
| | ④介護士離職率 7%以下 |
| (イ) タスクシフト・シェアの推進 | ①特定行為件数 前年比105%以上 |
| | ②新規タスクシェア件数 新規3件以上 |

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 安定した経営基盤の確保

(ア) 増収と費用削減	①診療報酬改定 新規加算取得	20百万円以上
	②増収と費用削減効果額	20百万円以上
(イ) 職員一人あたりの生産性の向上	①職員1時間あたり生産性	8,528円/h以上
	②人員計画の適正管理	損益分岐点人員数以下
	③貢献に対する適正な評価	評価指標設定
(ウ) 予算達成	①入院単価	84,500円以上
	②外来単価	25,700円以上
	③当期活動増減差額	450百万円以上

【数値指標】

サービス活動収益	26,470百万円	常勤換算職員数	1539.4人
外来患者数	920人	外来単価	23,200円
入院患者数	全体 595人 <一般 559人・精神 35人・結核 1人>		
入院単価	全体 84,500円 <一般 87,400円・精神 38,000円・結核 70,000円>		
病床利用率	全体 78.5%<一般 87.3%・精神 33.7%・結核 7.1%>		
紹介率	85%	逆紹介率	107%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2026年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2026年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

2025年度は、数年前からスタートした多職種連携の強化と利用者家族とのより良いパートナーシップを築く取り組みが、形として見え始めた年であった。具体的には、多職種カンファレンスにおいては職員一人一人が、自分達の専門的な視点から発言したり、骨折予防プロジェクトなど多職種でない取り組みない課題解決のための提案がなされるようになった。また、利用者家族との多職種面談を重ねることで、利用者一人一人の「最善」についてオープンに話合う土台が築かれるようになった。

この一年で入所利用者の数は徐々に増加しており、待機者が少しずつ増えている。また、在宅支援のニーズ（ショートステイ、レスパイト入院）や発達期リハビリにおいて新規の紹介が徐々に増えている。一方、医療安全、成人科移行や地域連携のあり方、担い手不足などの課題は、より顕在化している。医療・福祉分野の転換期と言われる中、施設としての役割を果たすためにこれまでにない発想や取り組みが求められる。

2026年度は、引き続き、重症心身障害医療及び発達期リハビリ医療に専門性を持つ医療者の育成、チームとしての多職種連携の強化、職員研修などを通じて利用者生活支援の質の向上を図る。また、在宅支援について、地域の実態に基づいた適切な連携を図る等、多様な人材を生かし、質の高い医療、生活を提供できるよう取り組みたい。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個人の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
 - (ア)利用者誤認ゼロに向けての更なる対策強化
 - (イ)総合病院の実施する障害福祉サービス施設としての感染症対策を継続
 - (ウ)多職種・多職場の対話による連携強化
 - (エ)多職種連携による個別支援計画の作成

2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供【診療体制の強化】
 - (ア)障害医療の専門医師の育成
 - (イ)入所利用者の病院受診への対応検討
 - (ウ)成人入所者の診療体制の構築

3. 職員教育の充実
 - (ア)医療事故防止のための職員教育の徹底
 - (イ)生活支援員、看護師等の専門職の人材確保
 - (ウ)障害支援に対するプロフェッショナル意識の浸透

(エ)多職種によるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）勉強会の継続

(オ)施設運営についての意識向上

4. 地域から求められる施設機能の整備

(ア)ショートステイ／レスパイト入院の地域ニーズへの対応を継続

(イ)児童発達支援センター機能の検証及び事業方向性の検討

(ウ)障害福祉サービス通所部門の事業継続のための体制作り

(エ)障害児者歯科外来の診療継続

(オ)事業継続計画（BCP）の精度強化

(カ)提供する各サービスや施設方針の見える化

(キ)在宅療養者支援のための多施設協同カンファレンスの継続

(ク)リハビリテーションの更なる充実

5. 業務改革の更なる推進【安定した経営基盤の確保】

(ア)現有マンパワーで持続可能なサービス提供範囲と経営バランスの検討

入所ニーズ高まりへの対応、持続可能なショートステイ／レスパイト入院の受入の継続、
新たな人材・施設・設備整備を目指す上で必要な原資とのバランスを模索

(イ)ICT活用の更なる推進

(ウ)中長期的な施設運営計画の検討

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	2,126,490 千円	136,510 千円	52,000 千円	119,600 千円
職員数	196.0 人		6.7 人	17.0 人
入院患者・利用者数	130 人	11 人	—	—
入院単価（医療）	33,500 円	—	—	—
外来患者・利用者数	23 人	—	10 人	34 人
外来単価（医療）	4,500 円	—	—	—
単価（福祉）	10,250 円	34,000 円	17,000 円	13,500

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2025 年度も超強化型介護老人保健施設として求められる在宅復帰率や回転率を維持しつつサービスの見直しや新規事業に取り組んだ。サービスの見直しでは通所リハビリテーションをリハビリテーション課所属にしてセラピストがより利用者と関わるができるよう組織変更を行った。新規事業として障害福祉サービスの指定を受け、共生型施設として障害者の受け入れを開始した。

2026 年度は、利用者価値の視点として、施設内クラブ活動（にこにこクラブ）の充実や ACP（人生会議）のひとつとして利用者から提示された『私の願い』を日々の生活に取り入れて利用者満足度をあげていく。価値提供行動の視点では、緊急入所（短期入所）への対応を継続するとともに、利用者のポリファーマシー（多剤併用）対策を行ったり、聖隷グループとの相互利用や多職種カンファレンスを推進する。成長と学習の視点では、理念や ICT、専門知識などの多角的な視点を持つ職員教育を実施するとともに介護 DX の積極的な検討・導入を進める。また持ち上げないケアの推進と健康経営を意識した働きやすい職場環境づくりを推進する。財務の視点では、予算達成のために稼働率、回転率をモニタリングしていくとともに 2027 年度介護報酬改定に向けての情報収集を行い 2027 年度初めより新規加算が取得できるよう準備を行っていく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点

1. 地域社会に貢献できる事業の実施

(ア) 利用者サービスの充実

①入所、短期入所、通所リハビリテーション
利用者の平均満足度 80%以上

②にこにこクラブ活動参加者数 12 名/日

③『私の願い』実施率 80%以上

(イ) 地域における公益的な取り組みの実施

①障害福祉サービスの受け入れ件数 4 件/月

②無料定額事業利用者減免率 10%以上

「価値提供行動」の視点

2. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

(ア) 地域関係機関からの受け入れ体制強化

①緊急入所（短期入所）応需率 70%

②地域関係機関からの相談件数 550 件/年

3. 安全・安心・快適で質の高いケアの提供

(ア) 安全・安心な在宅復帰・在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供

①通所リハビリテーション平均利用者数 30 人

②訪問リハビリテーション利用件数 5 件/月

- ③減薬ができた利用者数 7 人/月
- (イ) 聖隷グループとの協働によるシームレスな
ケアの提供
- ①聖隷三方原病院入所受け入れ件数 75 件
②事業団ケアマネージャー相談件数 130 件
③事業団内他事業所との相互利用件数 4 件
④多職種カンファレンス開催件数 6 件
4. 安定的に事業継続ができる体制の構築
- (ア) 新規利用者、リピーターの確保
- (イ) クラスタを起ささない感染対策および
災害対策の強化
- 「成長と学習」の視点
5. 多角的な視点を持った人材の育成
- (ア) 多角的な視点な視点を持てる職員教育
の実施
- (イ) 聖隷 DX の推進
- ①新規利用者 110 人/年、リピーター 95 人/年
②感染対策研修への職場参加率 100%
③直近 2 年での防災訓練職員参加率 100%
- (ア) 多角的な視点 (理念浸透、ICT、専門知識、
接遇) を持つための取組件数 5 件以上
- ①インカム導入による職員満足度 80%
②AI 議事録利用件数 3 件/月
③介護 DX の検討・導入件数 3 件以上
6. 働き続けられる職場環境づくり
- (ア) 持ち上げないケアの推進
- (イ) (健康経営) 働きやすい職場づくり
- ①福祉機器使用率 90%以上
②持ち上げないケア勉強会参加率 80%以上
①職員満足度『働きやすさ』4.0 以上
②超過勤務 450 時間、有休消化 17 日
③人間ドック受診率 60%以上
- 「財務の視点」
7. 利用者の期待に応えられる経営管理
- (ア) 予算稼働率の確保、適性回転率の維持
- (イ) 年度予算の達成
- ①稼働率 87%、回転率 12~17% (入所)
①税引前当期純利益 30,000 千円
②人件費率 66.8%
- (ウ) 未取得加算への対応
- (エ) 2027 年度報酬改定への対応
- ①未取得加算取得件数 2 件
②新規加算検討件数 4 件

【数値指標】

	入所 (短期入所含む)	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	131 人	30 人	5 件
	入所 122 人	介護保険 29 人	
	短期入所 9 人	介護予防 1 人	
単価/人	16,450 円	13,200 円	9,000 円
サービス活動収益 :	917,000 千円	常勤換算職員数 :	94.3 人

総合病院 聖隷浜松病院

人口動態の変化に伴う医療需要と労働力への影響、世界的な物価高やそれに見合わない診療報酬改定など 2025 年度も引き続き厳しい事業運営となった。

医療を取り巻く環境は大きく変遷し続けており、こうした時代の転換点においても当院が選ばれ続ける病院であるためには常に先へ進む姿勢が求められる。

2026 年度は『Beyond～3PJ 始動～』をテーマに、地域・時代のニーズに応える医療提供を実現するため、中長期的な視点に立った、手術室運営 PJ、病床管理 PJ、経営改善 PJ の 3 つのプロジェクトを本格的に始動させる。同時に診療報酬改定への対応も視野に入れながら、経営基盤の強化を図る。

厳しい経営状況の中でも必要な先行投資を吟味し、病院 DX の推進とムダ・ムラ・ムリの視点での業務改善により、職員の負荷軽減と効率化を実現する。安全で質の高いチーム医療とリスク文化の醸成を通じて、あたたかみのある組織へ進化させながら、地域の医療ニーズに応え続ける。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2030】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 病院 DX と業務効率化で質と経営の両立を実現します
- 災害・感染対策を強化します
- 環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

- (ア) 選ばれ続ける病院
 - ① 患者：褒め投書件数（累積）
対前年比 100%以上
 - ② 職員：接 GOOD さん推薦件数 5 件以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 高度・急性期医療の提供

（ア）地域と時代のニーズに応える医療提供

① 紹介初診患者数 2,000 件/月以上

3. 新時代の医療への挑戦

（ア）職員の負荷を減らし効率的な手術室運営（手術室運営PJ）

① 予定手術締切時点での稼働率 67%以下

（イ）中期的な視点で病床管理・再編（病床管理PJ）

① 重症患者救急車制限時間 前年同月比 30%削減

（ウ）やりたい医療を実現するための経営改善（経営改善PJ）

① 週末病床稼働率 82%以上

4. 医療の質と安全の保証

（ア）病院DXの推進

① 生成AI（GenU等）活用ユースケース数
年度末時点 5件以上

② DX関連 新規検討・導入件数
年度末時点 5件以上

（イ）ムダ・ムラ・ムリの視点での業務改善

① 非償還材料の採用品目数 3%削減

② 業務改善・削減に取り組んだ
テーマの目標達成率 40%以上

（ウ）安全で質の高いチーム医療の推進

① 転倒転落による負傷発生率
事象レベル 3a 以上 0.4%以下

② グッドジョブ・ヒヤリハット報告率
全体のIA報告のうちレベル0報告及び
グッドジョブ報告の割合 20%以上

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 働きがいと職員の成長

（ア）リスペクトし互いに高め合える組織

① 委員会主催の学習会参加者数
前年度比 5%以上

（イ）あたたかみのある組織

① コミュニケーションに関する学習会
アンケート肯定回答率 80%以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 未来をつくる経営基盤

（ア）将来を見据えた病院経営

① サービス活動収益増加率（成長率）

前年度比 7.7%以上

② 税引前当期活動増減差額 520 百万円以上

【数値指標】

サービス活動収益	40,557 百万円		職員数	2,247 名	
入院単価	104,500 円	入院患者数	680 名	病床利用率（歯科含む）	90.9%
外来単価	27,300 円	外来患者数	1,610 名	平均在院日数	10.5 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率		70.0%

【地域における公益的な取組】

当院は、地域で暮らす既存の福祉制度には該当しない疾患を抱えた長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに行なう相談会を定期的で開催している。2026 年度は、ハローワーク相談会を 12 回、社会保険労務士の相談会を 4 回開催する計画としている。また、がん罹患し就労継続に困難をかかえる療養者と事業主に対し、商工会議所と連携し当院のがん支援センターが相談の窓口を担っており、継続していく。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2025 年度は 12 月までに 1 名の利用があった。引き続き、社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々へ向けた受入体制の確保と充実を図っていく。

聖隷淡路病院

人口減少、高齢化の進行、国が示す医療・介護の方向性といった外部要因に加え、当院に求められる救急受入れおよび在宅医療連携の中核機能を継続するために、病床適正化の検討、総合診療部の創設、PFM（Patient Flow Management）の強化、AI技術の業務導入など即効性を持って進めていく。当院の強みである地域急性期機能、在宅医療連携機能は維持し、今後も地域ニーズを請け負う砦として運営を充実させていく。4月に新しく健診システムが稼働する。健診事業の拡充に加え、受診後の経過観察や治療も含め、地域市民の健康を支援できる体制を強化していく。

地域開業医との連携を今後も大切に、「困ったときに頼れる病院」として地域の声に確実に応える体制を継承しつつ、訪問診療や訪問リハビリなど市民の方々にも、安心してこの地域で暮らし続けられるよう支援を充実させていく。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【ビジョン】

『地域住民から最も信頼される医療機関へ』

【経営方針】

1. 地域医療の中核を担う病院へ
2. 高齢化社会に対応した包括的な医療の提供
3. 職員が誇りをもてる職場づくり
4. 持続可能な経営基盤の構築

【事業・運営計画】

1. 地域医療の中核を担う病院へ：病床スリム化と多機能化
 - (ア) 経営構造の抜本的改革
 - ① 病床適正化の検討
 - ② 新規サービスの開始と拡充
 - (イ) 地域在宅医療の強化
 - ① 訪問診療、訪問リハビリの拡充
 - ② 淡路地域病院・施設のベッドコントロール一体化
2. 高齢化社会に対応した包括的な医療の提供：運営の一元化と集約、高機能化
 - (ア) 総合診療部の創設
 - ① 組織体制・管理規程の見直し
 - ② 研修医・専攻医の育成
 - (イ) PFM（Patient Flow Management）の強化
 - ① 患者情報の一元管理による業務集約と整理

- ② 入院から退院までのフローの見直し
 - (ウ) 高齢者救急の受け入れ態勢強化
 - ① 救急応需トリアージの徹底
 - ② 消防救急との関係性強化
3. 職員が誇りをもてる職場づくり：職員ひとり一人が生き活きと働ける組織へ
- (ア) 組織風土の改革
 - ① 組織横断的ローテーションの実施
 - ② AI の業務への導入と実用化
 - (イ) プロフェッショナルリズムの追求
 - ① 認定・特定看護師の育成
 - ② 専門性の強化
4. 持続可能な経営基盤の構築：安定した医療提供を続けられる病院を目指す
- (ア) 収益性の改善
 - ① 安定した病床管理調整
 - ② 外来患者増患の取り組み
 - ③ 予防健診事業の拡大
 - (イ) コスト削減
 - ① 適正な人員配置と人件費コントロール
 - ② 医薬品・医療材料の在庫管理の適正化
 - ③ 委託契約の見直し
 - (ウ) DX の推進と業務効率化
 - ① 健診システムの安定稼働
 - ② オンライン診療の仕組化と運用
5. その他
- (ア) 防災意識を向上と、災害と緊急事態に備えた BCP（事業継続計画）訓練の実施
 - (イ) 5S 活動の推進と実施
6. 地域における公益的な取組
- (ア) 地域開業医との連携強化
 - (イ) 地域住民への健康啓発のための情報発信
7. 無料又は低額診療事業について
- 無料又は低額診療施設として生活困窮者を受け入れ、基準 10%以上の実績を維持する。

サービス活動収益				2,315,500 千円	
入院患者数	126 人/日	入院単価	36,700 円	職員数	196 名
外来患者数	117 人/日	外来単価	12,000 円	病床利用率	82.9%

聖隷横浜病院

2025年度は、物価高と人件費の高騰という極めて厳しい環境下にあった。しかし、病床管理センター主導の取り組みをはじめとする全職員の尽力により、前年度を上回る入院患者を確保し、中期事業計画（2021-2025）を完遂することができた。

2026年度は、地域社会における当院の役割を再定義し、持続可能な未来を築くための重要な転換期となる。次期中期事業計画（2026-2030）の初年度として、本格的な変革を始動する。横浜市および保土ヶ谷地区においては、75歳以上の後期高齢者人口が2050年まで急速に増加し、高齢者に対する医療ニーズは不可欠なものとなる。事業団中期事業計画に掲げられた「時代変化に伴う大胆な選択と、更なる質の追求」に基づき、当院は地域中核病院としての機能特化を断行する。保土ヶ谷区の深刻な高齢化に対応するため、「高齢者総合診療機能」と「緩和ケア機能」を核に据える。地域の医療・介護資源とシームレスな連携が可能な体制へと再編・最適化を図り、地域ニーズに即した医療提供体制を確立する。また、神奈川県が推進する「未病改善」の取組に呼応し、健診部門を戦略的な収益の柱と位置づけ、「予防と治療の健康パートナー」として事業の拡大を目指す。併せて、DX（デジタルトランスフォーメーション）を実現するための戦略的設備投資により、強靱かつ効率的な運営基盤の刷新を進める。

全職員が一丸となり、新たな中期計画の理念の下、地域に真に必要とされる医療機関として、持続可能な経営と質の高い医療サービスの提供という二つの目標達成に向け、力強く一歩を踏み出す一年とする。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【運営方針】

1. 地域の医療ニーズに最適な地域包括システムを推進し、安全で質の高い医療を提供します

(ア) 1-1. 安全で質の高い医療の提供

- ①医療安全管理体制および感染管理体制の強化
- ②DX推進による診療に関わる業務の徹底的な自動化
- ③手術室の効率的な稼働
- ④専門性を最大限に発揮させる多職種連携チームの活動強化

(イ) 1-2. 病院機能の特化と強化

- ①ケアミックス病院として各機能病床の安定稼働
- ②外来診療科体制の充実
- ③医療・介護事業所との連携
- ④救急診療体制の充実
- ⑤訪問看護ステーションの機能強化

(ウ) 1-3. ウェルビーイング・未病領域の戦略的強化（予防と治療の一体化）

- ①健診から診療への連携強化
- ②AI解析を活用したドック・健診事業の充実

2. 病院理念を実践する人材を確保し、育成します
- (ア) 2-1. 高度化・多様化するニーズに応える関東地区の人材育成と活用
- ①採用から多施設応援を含めた適材適所の人員管理
 - ②医療専門職の部門横断的な人員配置の強化
 - ③AI を活用できる専門人材の確保
 - ④ケア移行スペシャリストの育成
- (イ) 2-2. ICT を活用した「場所にとらわれない」働き方の推進
- ①院内業務・患者サービスの DX 化
 - ②フレックス勤務・リモートワーク等の新たな働き方の検討
- (ウ) 2-3. 社会福祉法人としての地域貢献と責任遂行
- ①社会的な生活困難者をはじめとした SDOH (Social Determinants of Health) (健康の社会的決定要因) への着目
 - ②無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持
3. 職員一人ひとりが運営に参画し、全ての利用者にとって最適な環境づくりをします
- (ア) 3-1. 業務標準化・集約化による生産性向上とコスト構造改革
- ①間接部門集約化の検討
 - ②バックオフィスの徹底的な省力化
 - ③個人に依存しない仕事の仕組みづくり
- (イ) 3-2. データドリブンによる病床機能と健診部門の収益最大化
- ①病床機能の最適化と効率的運用
 - ②健診部門の収益最大化
 - ③全院的経営ダッシュボードの検討
- (ウ) 3-3. 戦略的設備投資による運営基盤の刷新
- ①投資対効果を検証しつつ、将来価値を重視した設備投資の実施
 - ②サステナビリティ・DX 視点での設備選定
 - ③運営に欠かせない病院設備・整備の実施
- (エ) 3-4. 心身ともに健康的に働ける職場環境の構築
- ①職員自身の健康増進支援
 - ②インナーブランディングの強化

【数値指標】

サービス活動収益	11,103,500 千円	職員数	704.6 名
外来患者数	613 名	外来単価	20,468 円
入院患者数	344 名	入院単価	59,364 円
訪問看護介護保険単価	10,290 円	訪問看護介護保険訪問数	525 件
訪問看護医療保険単価	11,490 円	訪問看護医療保険訪問数	130 件
		救急車受け入れ件数	5,000 件
		病床稼働率	91.0%

<地域における公益的な取り組み>

- ・無料健康相談会の開催
- ・寄付型自動販売機の設置

<無料低額診療事業>

無料低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、基準 10%以上の実績を維持する

聖隷佐倉市民病院

2025年度は物価高や人件費の高騰により、病院経営は非常に厳しい状況であった。こうした中、「生き残り戦略プロジェクト」を発足させ、予算達成に向け診療機能の充実と費用削減に積極的に取り組んだ。診療機能の充実では、放射線治療装置の更新と緩和ケア病棟再開によりがん診療の充実を実現した。費用削減では、ペーパーレス推進、委託契約見直し、パート職員雇用推進など施策を実施した。また、生産性の向上、業務の効率化に向けた取り組みも開始した。

2026年1月に小谷新院長が就任し、4月には40名を超える職員採用を予定している。2026年度は変化の年と位置づけ、理念を体現する行動指針の策定、効率的な病棟運営、生産性の向上を推進する。そして、職員がより安心して力を発揮できる環境づくりを進めていく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします。

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

【事業計画】

1. 地域完結型医療の中核に向けた取り組み強化
 - (ア) 近隣医療機関との連携強化
 - ①年間紹介件数 14,400 件（月 1,200 件）
 - ②年間逆紹介件数 7,600 件（月 640 件）
 - ③2人主治医制の推進（対応診療科数 4科）
 - (イ) 救急患者の受入強化の継続
 - ①年間救急車受入台数 2,400 台以上
 - ②近隣医療機関からの緊急要請受入率 80%以上
 - (ウ) 院内外連携によるがん医療の充実
 - ①放射線治療装置稼働率維持
 - ②緩和ケア病棟稼働率 80%
 - (エ) 地域に必要とされる医療の提供
 - ①地域包括ケア病棟への直接入院数率 35%以上
 - ②ベッドコントロール運用の確立による効率的な病棟運営

2. 安心して受診できる医療の提供

(ア) 医療安全体制の強化

- ①急変時対応チームの強化
- ②全職場 IA レポート提出

(イ) 感染管理体制の充実

- ①感染対策向上加算Ⅱの維持
- ②血液培養 2 セット率の向上
- ③適正な手指衛生の実施

(ウ) 防犯体制、災害対応の強化

- ①防犯対策の充実
- ②BCP（事業継続計画）に基づく訓練の実施と行政との連携強化

(エ) 継続的な質改善活動

- ①病院機能評価更新準備
- ②クリニカルインディケーターの公表

3. 利用者に選ばれる病院づくり

(ア) 当院の強みを最大限活かす

- ①新規通院透析の残留率向上（50%以上）
- ②健診からの紹介件数向上（対前年度 10%増加）
- ③病院、訪問看護ステーション、ケアプランセンターの連携
- ④理念を体現する行動指針策定プロジェクト始動

(イ) 情報発信力の強化

- ①広報ツールの有機的な活用（HP 閲覧数 100,000/月、フォロワー数 800 人）
- ②地域住民参加型イベントの開催（年 6 回）
- ③年間プレスリリース配信数 10 件、取材対応 3 件

(ウ) 利用者中心の医療サービスの提供

- ①待ち時間の明確化と具体的な対策（対策実行件数 1 件）
- ②利用者の声を活用した改善活動（年 12 件）
- ③ACP の充実とスタッフ教育

4. 人材確保・定着と働きやすい環境づくり

(ア) 人材確保・定着

- ①休床病棟再開に向けた人材確保
- ②教育体制の充実
- ③離職理由の分析と対策実行（退職者数の減少）

(イ) 働きやすい環境づくり

- ①運用改善や DX による業務の効率化（年間 5 件実施）
- ②コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化

(ウ) 健康経営の推進

- ①職員二次健診受診率 100%
- ②ストレスチェック受検率 100%

5. 経営と運営の両立による健全経営

(ア) 収益予算の達成

- ①初診患者数、新入院数増加（対前年度 4%増加）
- ②診療報酬改定への対応
- ③DPC 制度の有効活用
- ④査定率改善 0.05%

(イ) 費用高騰への対策

- ①各種材料等の品目数適正化（5 品目削減）
- ②投資計画と実績評価（計画達成率 100%）
- ③業務の効率化による超勤削減（長時間超勤実施者の 1 割削減）
- ④職員一人ひとりが意識した費用削減

(ウ) 将来構想の継続検討

- ①将来を見据えた病院機能の検討
- ②SDGs、カーボンニュートラルへの積極的な取り組み

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施
- (イ) 生活困窮者の自立促進に向けたソーシャルワーカーによる相談支援

聖隷佐倉市民病院 健診センター

事業理念「わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせてお一人おひとりの健康の実現を支援します」に基づき、利用者には選ばれる健診センターづくりに取り組む。

【事業計画】

1. 利用者の要望や時代に合わせたコース内容の検討、新メニューの導入と評価（年 1 件以上）
2. 独自の接遇研修の開催により職員の接遇力を図る（年 1 回開催、参加率 100%）
3. キャンセル対策の検討と実施
4. 特定保健指導の実施率の向上（対前年度 10%増加）
5. ホームページやパンフレットを整備し、わかりやすく選びやすい情報提供
6. 要再検査・要精密検査の受診率を上げる取り組みの実施（年 2 件以上）
7. 職員や職員家族のドック受診率アップの取り組みの実施（職員ドック対前年度 5%増加）

せいれい訪問看護ステーション佐倉 / せいれいケアプランセンター佐倉

2025 年度は e ラーニングや外部研修を取り入れた段階的な教育体制を構築し、職員のスキルア

ップに努めた。子育てや介護を必要とする職員が勤務調整をしやすいような体制の整備を行い、職員一人ひとりの状況に応じた多様な働き方を進めた。

2026年度はDX化を推進し、更なる職員の働きやすさと質の高いサービスの提供を目指す。

【数値指標】

項 目	予 算	項 目	予 算
外来 患者数	803 名	外来 単価	15,700 円
入院 患者数	320 名	入院 単価	61,000 円
病床 稼働率	80.2%	職員数	775.5 名
健診 受診数	186 名	健診 単価	19,400 円
訪看 介護保険利用回数	472 件	訪看 介護保険単価	8,200 円
訪看 医療保険利用回数	202 件	訪看 医療保険単価	11,650 円
ケアプラン 介護保険利用回数	147 件	ケアプラン 介護保険単価	12,950 円
サービス活動収益			12,287,700 千円

<無料又は低額診療事業>

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い基準 10%以上の実績を維持する。

浜松市リハビリテーション病院

浜松市中心部に位置する当院は、他の医療機関では提供できない高密度なリハビリテーションを軸に医療機関や在宅を繋ぐことで地域医療が円滑に機能する役割を担っている。責任をもってこの役割を担っていくにあたり、地域で卓越した質の高いリハビリテーション医療を持続的に提供することが不可欠である。まずは人材の確保と育成が重要であり、職員が当院で自己成長を感じられ、安心して働くことのできる労働環境を整備して、人の集まる魅力がある仕組みをつくる。また、医療機関の経営は厳しい状況が続くため、事業継続には生産性の高い運用が必要となっている。DXを活用するなどの業務改善の取り組みを推進し、働きやすく効率的な病院をつくっていく。これらにより公的病院としてより多くの方に利用いただける運用を確立し、地域医療と経営の安定に貢献する。

これまで、職員の発想力を育み、互いに本音で語り合える組織文化を大切にしてきた。2026年度はこの強みをさらに活かし、想いを形として“つくる「創る」”ステージへと移行するため、年間テーマを『独創』と定めた。自由闊達な風土のなかで、職員各々が固定観念にとらわれないアイデアを発揮し、地域の方々に心から信頼され、選ばれる価値ある医療の提供と病院づくりに邁進する。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用者の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い地域連携体制を構築する
4. 職員の資質・技能向上、その育成と人材確保に努める
5. 健全な経営基盤を確立する

【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

【2026年度事業テーマ】：「独創」

- ・地域に選ばれる価値ある病院づくりをします
- ・各職種の専門性や個々の発想を活かし、浜リハらしい成長を全職員で創ります

【2026年度 事業目標・年度重点施策】

1. 隣人愛の精神のもと患者と職員に選ばれ続ける病院をつくる

- (ア) ライフプランと現場ニーズに配慮した就労体制の整備
- (イ) 自由闊達なコミュニケーションができる良好な職場づくり
- (ウ) 5S+1（接遇）により患者満足度向上と高品質化を実現
- (エ) 医師等採用困難職種の競争的確保
- (オ) 職員が健康で安心して働く健康経営の推進

2. 安全で質の高いリハビリテーション医療の実践と伝承

- (ア) 外部環境の変化に対応できるセンター体制の再構築
- (イ) 認知症予防リハビリテーションの実践
- (ウ) 専門職種における臨床テクニカルリーダーの醸成
- (エ) 看護・リハビリテーション協働体制の深化
- (オ) 想定されるあらゆるリスクへの対策を強化
- (カ) 多重疾患に対応したリハビリテーション医療の提供

3. 地域連携の HUB（ハブ：拠点）としての役割を果たす

- (ア) 地域のニーズに応じた柔軟な連携の強化
- (イ) 在宅復帰支援実践力の向上
- (ウ) 新訓練棟構想の具体化

4. 持続可能な経営基盤の確立

- (ア) 全病棟安定した入退院管理の実現
- (イ) ローコスト経営に沿った業務・運用改善
- (ウ) 省人化を目指した聖隷 DX の推進
- (エ) 新たな収益構造を生むサービスの創造

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 市民の健康増進活動と疾病予防への貢献
- (イ) 地域と連携した災害対策の整備
- (ウ) 市民や地域のあらゆるリハビリテーション医療従事者に向けた情報提供

【数値指標】

サービス活動収益	3,937 百万円		常勤職員数	425 名		
	外来	入院			介護	
		回復期	一般	合計	通所	訪問
患者・利用者数	162 人/日	176 人/日	41 人/日	217 人/日	967 人/月	474 人/月
単価	8,200 円	43,300 円	36,000 円	41,900 円	5,100 円	8,850 円
利用率		97.7 %	91.1 %	96.4 %		

聖隷袋井市民病院

当院は、重要性が年々高まっている回復期・慢性期医療を提供しており、地域の急性期病院、診療所、介護施設などとの連携を通して地域共生社会の一翼を担っている。2026年度は、袋井市から指定管理を受託し14年目となる。キーワードの『共感力と協働』を継続し、他者に共感的に寄り添い、多職種で協働し、利用者にとって最善の治療・ケアの提供を目指すとともに、職員同士、お互いを尊重し合って心理的安全性の高い強固な組織風土を構築していく。

【病院理念】

『私たちは、利用者の視線に寄り添い、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【基本方針】

1. 患者の権利を尊重した、良質な医療を提供します
2. 医療施設や介護事業所、行政と連携し、切れ目のない支援をします
3. 資源を最大限に活用した健全経営を確立します
4. 職員はお互いを尊重し合い、心理的安全性の高い職場をつくります
5. 職員は自らの専門性を高めるとともに、病院として地域に貢献できる医療人の育成に努めます

【事業・運営計画】

キーワード：共感力と協働 episode3

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 地域における特色ある医療の充実
 - ① 認知症患者への適切な医療やケアの質向上
 - ② 終末期患者（非がん患者含む）への症状緩和や看取りケアの質向上
 - ③ 患者と家族に寄り添った意思決定支援の質向上
 - ④ 先進機器の活用を含めたリハビリテーションの充実
 - ⑤ 摂食えんげ障害への支援の充実
 - ⑥ 高次脳機能障害への支援の充実
 - (イ) 多職種で取り組む質改善の継続
 - ① 医療安全体制の強化と実践
 - ② 院内感染管理体制の強化と実践
2. 地域共生社会への貢献
 - (ア) 退院後生活を見据えた支援体制の強化
 - ① 退院支援の質向上
 - ② 在宅リハビリテーションの拡充
 - (イ) 後方支援病院としての役割の継続的な遂行
 - ① 急性期病院との密な情報交換および連携の強化

3. 人材の確保・育成の推進

(ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種に対するリクルート戦略の強化
- ② 職員の教育研修体制の充実

(イ) 専門性向上の支援

- ① 資格取得後の活用体制の構築

4. 安心して働くことのできる職場づくり

(ア) 労働時間の適正化

- ① 時間の使い方改革

(イ) 労働環境の整備

- ① 健康施策の実施
- ② ノーリフティングケアの導入

(ウ) 両立支援制度の普及啓発、活用

5. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の最適化

- ① 柔軟なベッドコントロール
- ② 地域住民や診療所への情報発信力の強化

(イ) 災害対策の強化

- ① 発災から 72 時間に取り組むべき対応の強化

6. 地域における公益的な取り組み

(ア) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案

(イ) 袋井市版 ACP「こころのノート」普及啓発活動

(ウ) 認知症初期集中支援活動

【数値指標】

サービス活動収益	1,873,230 千円	常勤換算職員数	203.4 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	48 人／日	7,800 円	-
入院	137 人／日	31,100 円	91.3%
再掲（回復期）	47 人／日	40,420 円	94%
（一般）	43 人／日	28,970 円	86%
（療養）	47 人／日	23,560 円	94%
	利用回数	単価	
訪問リハビリテーション	1,092 件／月	3,346 円	

保健事業部

聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック
聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター
聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* 聖隷静岡健診クリニック
聖隷富士健康診断センター

2025年度は、2024年度までの経営改善の取り組みを基盤として、各施設における機能強化と事業拡大が着実に進展した年度であった。聖隷健康診断センターにおける内視鏡7ライン化は、4月の本格稼働以降、胃カメラ検査の受入体制を大幅に拡充し、稼働率・収益性の両面で良好な成果を上げている。さらに東伊場クリニックや2025年度より新たに加わった聖隷富士健康診断センターの利用者数も増加、健診提供体制が一層強化された。また、NHK「ドキュメント72時間」の放映をはじめとした地域へのさまざまな啓発を通じて、事業部の取り組みが広く社会に発信され、認知度・信頼性がさらに向上したことも特筆すべき点であった。これらは聖隷の理念に基づき、職員一人ひとりが利用者に寄り添うサービスの提供を実践してきた努力の賜物であり、改めて深く感謝の意を表したい。

2026年度は、近年の厳しい経営状態から脱却し経営の完全黒字化を目指すべく「保健事業の質の維持向上」「運営効率の向上による経営基盤の強化」「健康経営の推進」「デジタル基盤の強化」「次世代人材の育成」の5つを柱に、コア事業である人間ドック・健診に注力して顧客の維持・獲得を図る事業運営を行う。具体的には、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*のMRI更新により、検査体制の充実と利用拡大を通じてサービスの質的向上を図るとともに、巡回健診部門では利用団体にもメリットのある提案を行うことで健診内容とエリアの最適化を推進する。さらに協会けんぽの人間ドック補助制度開始も的確に捉え、加入団体や被保険者等への営業を強化することで利用者数の増加を目指す。そして2026年4月から施設内で完全導入するWEB問診を「聖隷DX」の一環として実施し、WEB予約・結果請求の推進やRPA、システム改修の活用による業務効率と正確性の向上とともに、業務省力化によって生まれた時間を利用者対応や職員育成に還元、長時間労働の是正と働きやすい職場環境の整備を進める。また2027年度に予定されている健診項目見直しに対応できるよう制度改正への準備を進めるとともに、聖隷の理念を組織全体にさらに浸透させ、保健事業を担う人材育成や次世代の役職候補者の計画的な育成を推進する。

以上を通じ、2026年度は「顧客から選ばれ続けるセンター」としてのブランドの確立と、経営基盤の強化を図る年度とする。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. 利用者が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりが、やりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業計画】

1. 保健事業の質の維持と向上

利用者及び契約団体のニーズに的確に応え、精度の高い検査とアウトカムを重視した保健事業を展開する。継続的な品質管理と専門性の向上を通じ、信頼される健診サービスの提供を目指す。

- (ア) 安全・安心なドック・健診等の提供を最優先とする事業体制の確立
- (イ) 現利用者の着実な定着と新規利用者獲得に向けた施策の実施
- (ウ) 協会けんぽの人間ドック補助制度開始に対応した営業の強化
- (エ) 医師等専門職の確保を通じた事業継続力の向上
- (オ) 特定保健指導の積極的推進とアウトカム重視による重症化予防事業の強化

2. 運営効率の向上による経営基盤の強化

閑散期対策や事業団内外との連携強化を通じ運用効率を高め、地域ニーズに即した運営を推進する。あわせてサービスに見合う価格やエリアの最適化を図り、持続可能な経営体制を確立する。

- (ア) 閑散期対策や次年度予約の推進による利用者数および閑散期稼働率の増加
- (イ) 聖隷富士健康診断センターのさらなる事業成長に向けた事業運営と営業推進
- (ウ) 地域や受診者ニーズに即した収益構造の最適化
- (エ) 事業団内連携の強化によるサービス価値の最大化
- (オ) タスクシフト・タスクシェア推進と業務標準化による生産性の向上

3. 健康経営の推進

働きやすい職場環境の整備と職員の意見を反映した運営改善を推進する。職員一人ひとりが意欲と誇りを持って業務に臨めるよう、ワークエンゲージメントの向上を図り、活力ある組織づくりを目指す。

- (ア) 労働時間の適正化と持続可能な勤務体制の構築
- (イ) 相互尊重に基づく心理的安全性の確保と安心して働ける職場環境の整備
- (ウ) 職員の心身の健康保持と離職率の低減による安定雇用の確保
- (エ) 挨拶運動や職員参加型の改善活動等によるワークエンゲージメントの向上
- (オ) 会議・委員会体制の見直し等による業務効率化と意思決定の迅速化

4. デジタル基盤の強化

WEB 事業の推進と DX の活用により、業務効率化とサービス品質の向上を両立させる。デジタル技術を経営資源として活かし、利用者にとっても利便性の高い新たな価値を創出する。

- (ア) WEB 問診の円滑導入および WEB 予約・結果請求の効率化と利用者の利便性向上
- (イ) RPA や AI の利活用による定型業務削減と人的リソースの有効活用
- (ウ) 巡回健診受付オンライン化による運用効率およびサービス品質の向上
- (エ) 基幹システムのレスポンス向上による業務正確性の確保
- (オ) HP・SNS 等を活用した情報発信強化による事業部のブランド力向上

5. 次世代人材の育成

専門性と実務能力のさらなる向上を目的とした教育・研修を充実させ、将来の健診事業を担う人材の育成に注力する。学び続ける文化を育み、組織の持続的成長につなげる。

- (ア) 次世代役職者候補の計画的育成による運営基盤の強化
- (イ) 経験・階層別の研修や学会発表の活用による専門性・実務能力の向上
- (ウ) 教育ツール整備と人材育成の体系化による保健事業への理解の深化
- (エ) 他施設および他職種との連携促進による視野拡大と学習機会の創出
- (オ) 事業部内での多様な業務経験を通じたスキル獲得および組織理解の深化

6. 地域における公益的な取組

自治体等との連携を強化し、地域住民の健康増進に資する公益的な啓発活動および保健事業を推進する。地域の健康課題やニーズを踏まえ、予防・健康づくりを支援し、地域社会への貢献と社会的役割の実現につなげる。

- (ア) 自治体等と連携した地域住民の健康増進に資する啓発・保健事業の推進

【数値指標】

■聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
33,162 名	251 名	49,978 名	7,002 名	24,700 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	
2,959 名	17,305 名	135,357 名	3,008,000 千円	

■聖隷予防検診センター、地域・企業健診センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
21,714 名	0 名	318,348 名	6,899 名	48,756 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	
46,936 名	12,490 名	455,143 名	4,543,000 千円	

■聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*、聖隷静岡健診クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
19,070 名	0 名	89,510 名	4,060 名	19,110 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	
7,585 名	10,730 名	150,065 名	2,092,000 千円	

■運営管理センター、聖隷富士健康診断センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
782 名	0 名	4,940 名	595 名	960 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	
0 名	0 名	7,277 名	132,000 千円	

■保健事業部合計

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
74,728 名	251 名	462,776 名	18,556 名	93,526 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	
57,480 名	40,525 名	747,842 名	9,775,000 千円	